

Chaenbaru Site  
**茶園原遺跡**

—ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2015年3月

宮崎県都城市教育委員会

Chaenbaru Site  
**茶園原遺跡**

—ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

## 序

本書は、ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に伴い、都城市教育委員会が実施した茶園原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書であります。今回の調査では、狹小な面積でありながら、繩文時代後期～近代までの幅広い時代の遺物と中世期の建物跡が見つかっており、私たちの先祖が当地域で繩文時代後期から生活を営んでいたことが分かる貴重な資料になると思われます。

本書が地域の歴史や文化財に対する理解と認識を深めるとともに、学術研究の資料として多くの方々に活用して頂けることを望んでいます。

最後になりましたが、発掘調査に御理解・御協力をいただいた、ソフトバンク株式会社様、有限会社ジーアイエス南九州様はじめとする関係諸機関、発掘調査に従事していただいた市民の方々に対し、心より厚く御礼申し上げます。

2015年3月

宮崎県都城市教育委員会  
教育長 黒木 哲徳

## 例　言

1. 本書は、ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に伴い都城市教育委員会が平成25年度に実施した茶園原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書で使用したレベル数値は海拔絶対高で、基準方位は真北である。
3. 現場における遺構実測は、発掘調査作業員の協力を得て、同市文化財課主事中園剛史・同嘱託下田代清海が行なった。本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は中園・下田代が行なった。遺物の実測及びトレースは整理作業員及び中園・同主査栗山葉子が行なった。土器の観察・分類は中園が行い、栗山の助言・協力を得た。
4. 本書の遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・写真的番号は一致する。
5. 土層の色調は「新版標準土色紙」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）2001年度前期版を参考にした。
6. 石器実測図における——は敲打痕の範囲を示す。
7. 発掘調査で出土した遺物は都城市教育委員会で保管予定である。
8. 全ての記録（図面・写真）は都城市教育委員会で保管している。
9. 本書で用いた略式記号は次のとおりである。SB：掘立柱建物
10. 出土遺物の時期比定に関しては、以下の編年研究の成果を参考とした。  
上田秀夫 1982年 「14～16世紀の青磁分類」（日本貿易陶磁研究会『貿易陶磁研究 第2号』）  
水ノ江和同・前迫亮一 2010年 「各地域の土器編年 九州」（千葉 豊『西日本の繩文土器 後期』）

## 本文目次

## 挿図目次

第1章 序説	1	第1図 遺跡位置図	4
第1節 発掘調査に至る経緯	1	第2図 調査区位置図	5
第2節 調査組織	1	第3図 調査区区域図	6
第3節 調査の経過	2	第4図 調査区土層断面図	7
第5図 道構配置図	8		
第2章 遺跡の位置と環境	3	第6図 土層模式柱状図	9
第1節 地理的環境	3	第7図 繩文時代後期土器実測図	10
第2節 歴史的環境	3	第8図 繩文時代後期土器実測図	11
第3章 発掘調査の成果	9	第9図 弥生～古墳時代土器実測図	12
第1節 基本構成	9	第10図 古墳時代土器実測図	13
第2節 繩文時代後期の遺物	9	第11図 中世～近代遺物実測図	14
① 口縁～頭部	9	第12図 SB1・SB2実測図	16
② 脚部	11	第13図 石器実測図	17
③ 底部	11		
第3節 弥生～古墳時代の遺物	11		
① 弥生土器	11		
② 高杯	11	第1表 遺物観察表	19
③ 壺	14	第2表 遺物観察表	20
④ 壺	15	第3表 石器観察表	20
⑤ 小型丸底壺	15		
第4節 中世～近代の遺物と道構	15		
① 青磁	15	図版1 茶園原遺跡の調査①	21
② 染付	15	図版2 茶園原遺跡の調査②	22
③ 天目茶碗	15	図版3 茶園原遺跡の出土遺物①	23
④ 薙摩焼	15	図版4 茶園原遺跡の出土遺物②	24
⑤ 道構（掘立柱建物跡）	16	図版5 茶園原遺跡の出土遺物③	25
第5節 石器	18		
第4章 まとめ	18		

## 表目次

## 写真図版

## 第1章 序説

### 第1節 発掘調査に至る経緯

平成25年1月7日付で有限会社ジー・アイ・エス南九州より都城市高城町徳満坊軍人原2613番においてソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設予定地における文化財の所在の有無について照会があった。これを受けて都城市教育委員会は事業予定地内の踏査を行い、平成25年6月12日に確認調査を実施した。

確認調査結果を基に有限会社ジー・アイ・エス南九州、宮崎県教育委員会文化財課、都城市教育委員会文化財課により協議が進められ、工事施工により地下道構等が影響を受ける部分（都城市高城町徳満坊軍人原2613番）について、工事着手前に発掘調査を実施することで合意がなされ、平成25年10月17日付で「茶園原遺跡における埋蔵文化財の取り扱い等に関する協定書」が締結された。

協定締結に引き続き、平成25年10月17日付で「茶園原遺跡埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が締結され、10月28日より調査が開始された。調査対象面積は112m<sup>2</sup>である。

### 第2節 調査組織

茶園原遺跡の発掘調査組織は以下のとおりである。

平成25年度（発掘調査実施年度）

調査主体 宮崎県都城市教育委員会

調査責任者 教育長 酒匂 謙以（～平成26年2月24日）  
黒木 哲徳（平成26年2月25日～）

調査事務局 教育部長 池田 文明  
文化財課長 新宮 高弘

文化財副課長 松下 連之  
文化財課主幹 桑畠 光博

調査担当者 文化財課主事 中園 刚史  
調査補助 文化財課嘱託 下田代 清海

庶務 文化財課嘱託 松村 美穂

発掘作業員 奥 利治 馬籠 恵子 今村 ミツ子 森山 タフ子 今村 まさ子 竹中美代子 高橋 露子  
中原 忠珍

整理作業員 横尾 忠美子 山下 美香

平成26年度（整理・報告書刊行年度）

調査主体 宮崎県都城市教育委員会

調査責任者 教育長 黒木 哲徳  
調査事務局 教育部長 児玉 真雄

文化財課長 新宮 高弘  
文化財副課長 松下 連之

文化財課主幹 桑畠 光博

調査担当者 文化財課主事 中園 刚史  
調査補助 文化財課主査 栗山 葉子 文化財課主査 山下 大輔

庶務 文化財課嘱託 松村 美穂（～平成26年4月～）  
畠中 夏奈（平成26年6月～）

整理作業員 水光 弘子 新徳 より子 奥 登根子 尾曲 真貴 横尾 恵美子 免田 友香理

## 第3節 調査の経過

### ○発掘作業

発掘作業は平成25年10月29日の重機による表土掘削より開始し、11月26日に終了した。

### 調査方法

現土層から黒色土層上面までを重機により除去した後、作業員の人力により遺構検出、遺構掘り下げを実施し、図面・写真等により状況を記録した。

記録図面の作成は中園剛史・下田代清海が行った。土層断面図などは手書きで作成し、遺構平面図は基準点（グリッド坑）及び補助点に設置したトータルステーションを使用し、放射法により測定、電子平板（『SITE XROSS』コンピュータ・システム株式会社）を用いて図化を行った。遺物の出土位置記録にもトータルステーションを用いた。

### 調査の経過

調査区は畑に位置する。重機による表土除去の段階で、多数の遺物が出土したため、II層より包含層とみなし記録保存を行った。

10月29日：重機による表土除去

10月31日～11月21日：調査開始

10月31日～11月12日：包含層（Ⅱ・Ⅲ層）掘り下げ 中世遺構検出

11月14日：平面図・断面図作成

11月18日：遺構測量、遺構掘り下げ

11月19日：縦文遺構検出（V層）

11月21日：完掘

11月22日：平面図・断面図作成

11月26日：重機による埋め戻し

調査に係る諸手続きは次のとおりに行った。

調査着手報告（平成25年11月7日付け都教文第645号・文化財保護法第99条第1項）

埋蔵物発見届（平成25年11月27日付け都教文第702号・文化財保護法第108条）

調査終了報告（平成25年11月28日付け都教文第704号）

### ○整理作業

出土遺物の水洗・注記・接合作業は平成25年度末から平成26年度にかけて文化財課1階整理作業室で行い、出土遺物の実測作業と報告書の執筆・編集は平成26年度に実施した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

都城盆地は霧島火山群と鶴塚山地との間に形成され、鹿児島湾・大隅半島・宮崎平野とのほぼ中間にあたり、盆地内を大淀川が北に貫流し、中央の低地を開拓するように成層シラス台地群、シラス台地群が発達している。

都城市は東西25km、南北35km、面積約650km<sup>2</sup>、周囲山地を含む盆地の大半を占め、人口規模は約17万人。市中心街地は盆地底南部に形成されている。

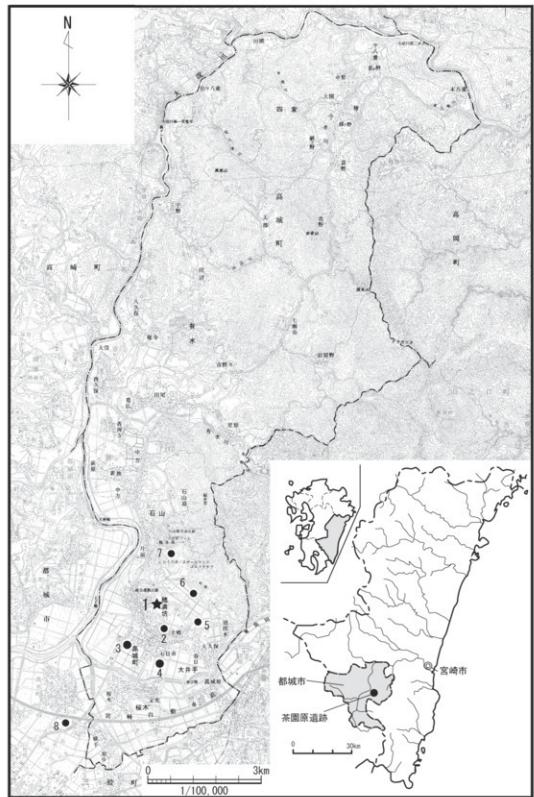
茶園原遺跡は都城盆地北縁、高城地域の南部にあり、東岳川右岸に展開するシラス台地面に立地している。台地中央には南北方向にのびる大きな開析谷があり、開発予定地は東に谷を望む台地縁辺部に位置している。現況は茶畠である。

### 第2節 歴史的環境

本道跡周辺には、城ヶ尾遺跡、牧ノ原遺跡群、永山原遺跡、真米田遺跡、七日市前遺跡、並木添遺跡、月山日和城址（高城址）などの遺跡が所在する。本調査区から北へ約1.5km、ゴルフ場建設に伴い発掘調査が実施された城ヶ尾遺跡では撫文時代前期・後期・晚期、弥生時代後期、平安時代の遺構・遺物が確認され、花弁状住居跡3軒と土壙が数基、掘立柱建物跡が確認されている。遺物としては曾畠式土器、市来式土器、草野式土器が確認されている。南東約1.5km、牧ノ原遺跡群には県指定史跡である高城町古墳群22基のうち13基が所在し、前方後円墳3基、円墳10基からなる牧ノ原古墳群を形成している。古墳以外にも箱式石棺5基、地下式横穴墓13基、土坑墓1基などの遺構が確認され、人骨・副葬品が出土している。また、中世の掘立柱建物跡15棟、溝状遺構1条、土壙4基が確認され、国產陶磁器、土師器などを出土している。東へ1kmの永山原遺跡では古代～中世の掘立柱建物跡が確認されている。南へ約1.5km、雇用創出ゾーン整備事業に伴う発掘調査が実施された七日市前遺跡では平安～中世の掘立柱建物跡が5棟と道路跡と考証される溝状遺構などが検出され、古墳～中世の遺物も確認されている。その中でも特筆される遺物として、鍔杖がある。同じく雇用創出ゾーン整備事業に伴う発掘調査が実施された真米田遺跡では大型掘立柱建物跡や都城市内で初例となる土師器焼成工坑などの遺構が検出され、都城市内で初例となる風字型を含め、コンテナケース400箱程の大量の遺物が出土している。南西へ約4km、工業団地造成事業に伴う発掘調査が実施された並木添遺跡では平安時代の道路状遺構と中世の掘立柱建物跡から農民のものと思われる集落跡が確認されている。南へ約500m、台地縁辺部には、シラス台地の先端部分を切って形成された南九州型の中世城郭の山城である月山日和城（高城址）が所在する。高城は中世肝付氏によって築城されたとされ、のちに畠山氏・和田氏・島津氏・伊藤氏・北郷氏・伊集院氏・島津氏の拠点として南北朝期から戦国時代を経て庄内の乱までの約360年間、戦火に囲まれた歴史を持ち、約400年前の元和元年（1615）一団一城令により廢されるまで、都城盆地内の勢力争いの先端となり使用された。

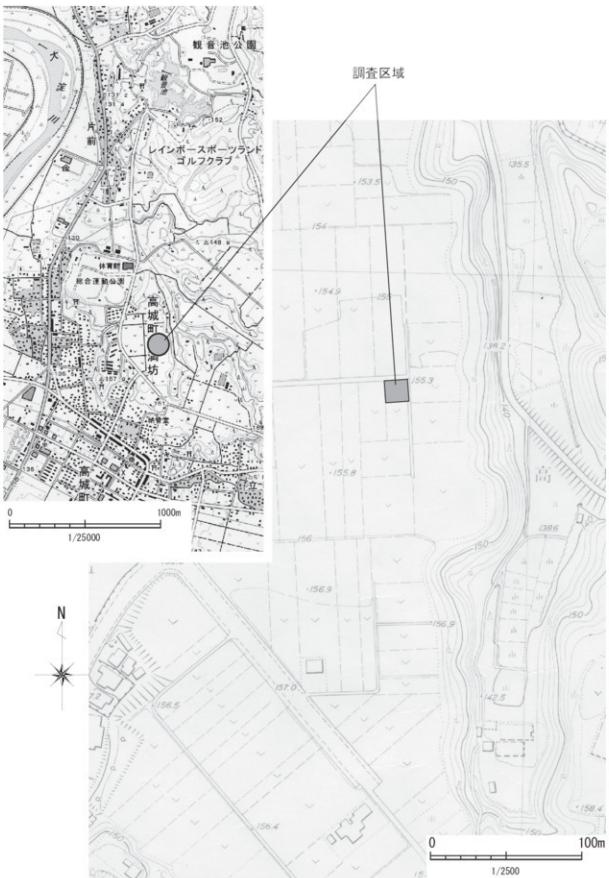
### 引用参考文献

- |           |  |
|-----------|--|
| 高城町教育委員会  | 1989年 『城ヶ尾遺跡』 高城町文化財調査報告書 第1集                |
| 高城町教育委員会  | 2005年 『牧ノ原遺跡群』 個人農地造成・道路拡幅に伴う埋蔵文化財調査報告書 第20集 |
| 高城町史編集委員会 | 1989年 『高城町史』                                 |
| 都城市教育委員会  | 1993年 『並木添遺跡』 都城市文化財調査報告書 第24集               |
| 都城市教育委員会  | 2014年 『真米田遺跡 七日市前遺跡』 都城市文化財調査報告書 第111集       |
| 宮崎県教育委員会  | 1969年 『高城町牧ノ原遺跡調査報告書』 宮崎県文化財調査報告書 第14集       |
| 宮崎県教育委員会  | 1994年 『永山原遺跡』 霧島南部2期地区広域農道建設工事に伴う発掘調査報告書     |

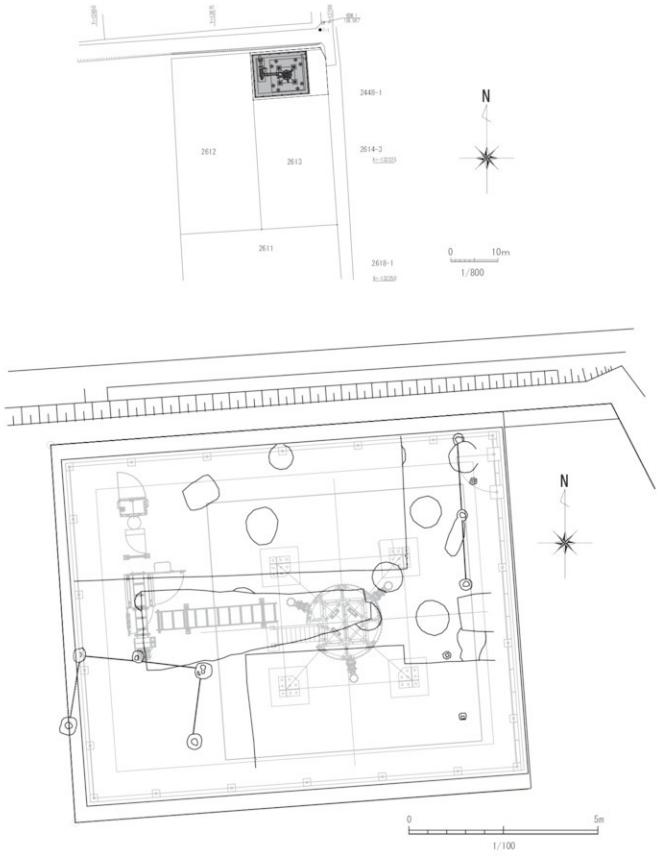


1: 茶園原遺跡 2: 月山日和城址 3: 真米田遺跡 4: 七日市前遺跡 5: 牝ノ原遺跡群 6: 永山原遺跡  
7: 城ヶ尾遺跡 8: 並木添遺跡

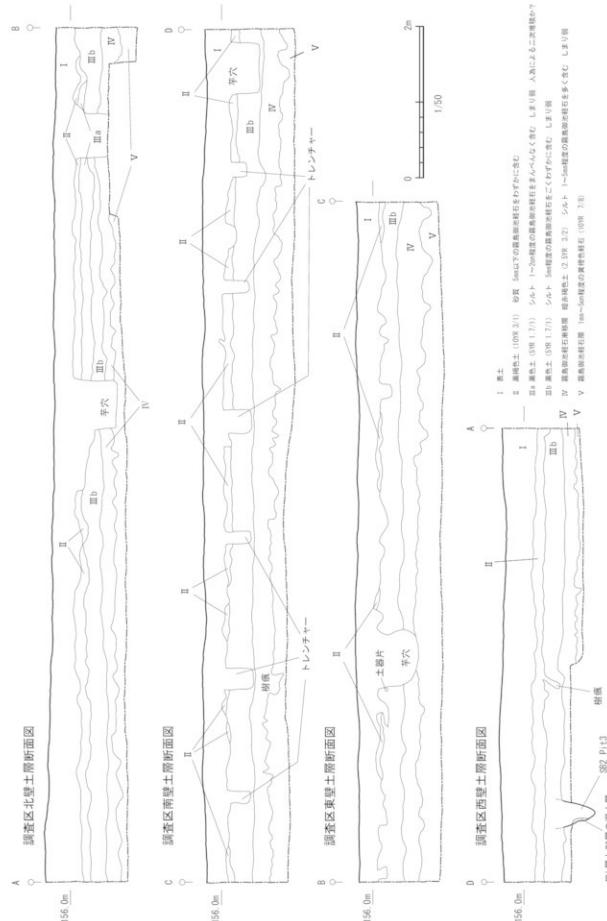
第1図 遺跡位置図 (S=1/100,000)



第2図 調査区位図 (S=1/2,500 + S=1/25,000)



第3図 調査区域図 (S=1/800・S=1/100)



第4図 調査区土層断面図 (S=1/50)

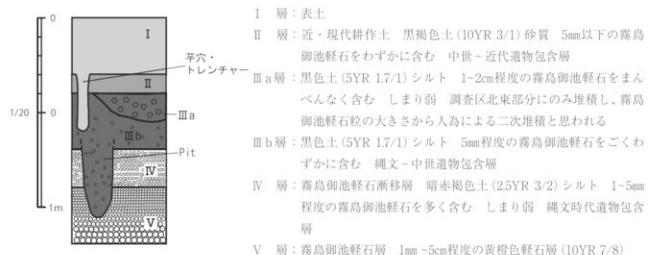


第5図 遺構配置図 (S=1/60)

## 第3章 発掘調査の成果

### 第1節 基本層序

調査区にて観察された土層を相対的に再構成し、第6図に模式化した。遺物が確認されたのは、II層、IIIa層、IIIb層、IV層であり、中世掘立柱建物跡と思われるピット8基が検出されたのはIV層上面である。また、II層およびIII層は部分的に現代の耕作（トレンチャー）により搅拌されている。



第6図 土層模式柱状図

### 第2節 縄文時代後期の遺物

第7図・第8図に縄文時代後期の土器実測図を掲載した。今回の調査では主に市来式土器が出土し、口縁部から胴部についてはI類:市来式、II類:納屋向式、III類:納曾式、IV類:丸尾式に分類した。胴部から底部にかけては、外面に条痕が施されているので市来式に分類した。遺構は検出されていないが、土器の出土量からして調査範囲周辺に縄文時代後期の遺構が存在していた可能性は否定できない。以下、出土資料を個別にみていくたい。

#### I類: 口縁・頭部

##### I類: 市来式

1は胴部から頭部にかけて直立ぎみに上半部を形成し、頭部から口唇にかけて緩やかに外反する。口縁部は貝殻刺突が施され、直下に沈線があり口唇は平坦である。口径は反転復元ではあるが24cmの平縁口縁である。松井塙出土（宮崎県 1989）の土器と類似している。2も1と同様の調整と胎土から同一個体もしくは同時期に作られた個体ではないかと考えられ、口縁から口唇にかけて外反し、細くなっている。

##### II類: 納屋向式

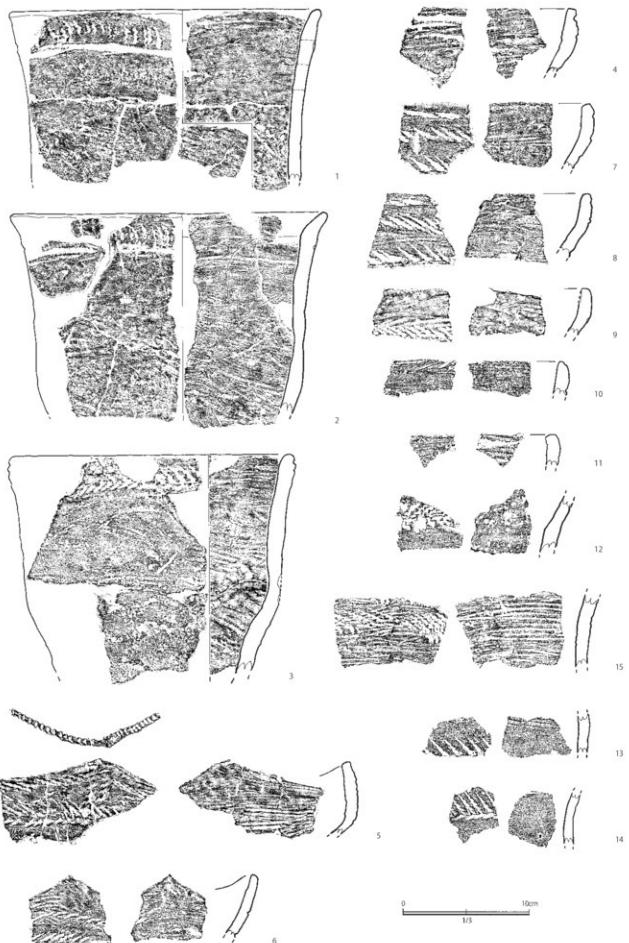
3は胴部に膨らみをもち、直立ぎみに上半部を形成しながら、頭部から口縁部にかけてわずかに外へ開いている。口縁部に貝殻刺突が施されている。宮崎市納屋向遺跡（宮崎県 1989）出土の土器と類似している。

##### III類: 納曾式

4は外面に三條の沈線と条痕、内面には条痕が施されている。口唇から頭部にかけて膨らんでいる。

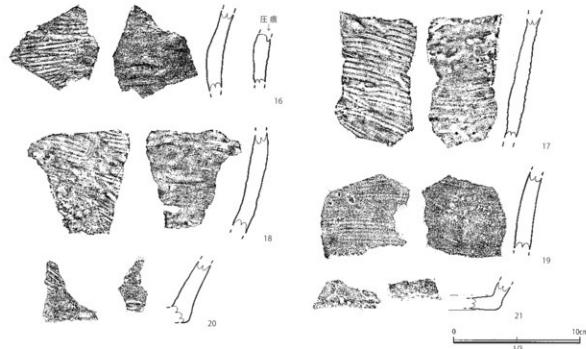
##### IV類: 丸尾式

5-15は丸尾式である。5は口縁部と口唇部の外縁に貝殻刺突文、内面は貝殻条痕文が施されている。頭部から口縁部にかけて逆「く」の字形になり、山形口縁である。6は外縁口縁部に貝殻条痕と二条の貝殻刺突文、内面に貝殻条痕を施している。山形口縁である。7は頭部付近で逆「く」の字形をなし、平縁口縁である。外縁に二条の貝殻刺突文と口縁上部に沈線を施し、内面は貝殻条痕のうちナデーションである。8も7と同様の調整、胎土、器形から同一個体もしくは同時期に作られた個体ではないかと考えられる。12は頭部外反し、外縁に貝殻による刺突が



第7図 縄文時代後期土器実測図

- 10 -



第8図 縄文時代後期土器実測図

施されている。15は頭部で外反し、外面は貝殻条痕のものに、貝殻刺突が施され、内面は条痕文が施されている。

② 刷部

16～19は市来式土器深鉢の刷部である。16は外面に貝殻条痕を施しスグが付着している。また、外面に圧痕がある。17は貝殻条痕が施され外面の一部にスグが付着し、内面は貝殻条痕のものにナデている。19は外面に貝殻条痕のものにナデられ、スグが付着している。

③ 底部

20と21は市来式土器深鉢の底部である。20は平底で、刷部にかけて外反する。外面は斜め方向に条痕を施している。21は平底で、底辺は反転復元ではあるが8cmである。

### 第3節 弥生～古墳時代の遺物

#### 第9図・第10図に弥生～古墳時代の土器実測図を掲載した。

今回の調査では弥生土器片2点と高坏・壺・壺・小型丸底壺等の土師器片が多数出土したが、遺構は検出されなかった。土師器の出土量からして調査範囲周辺に該当時期の遺構が存在していた可能性は否定できない。以下、出土資料を個別にみていくたい。

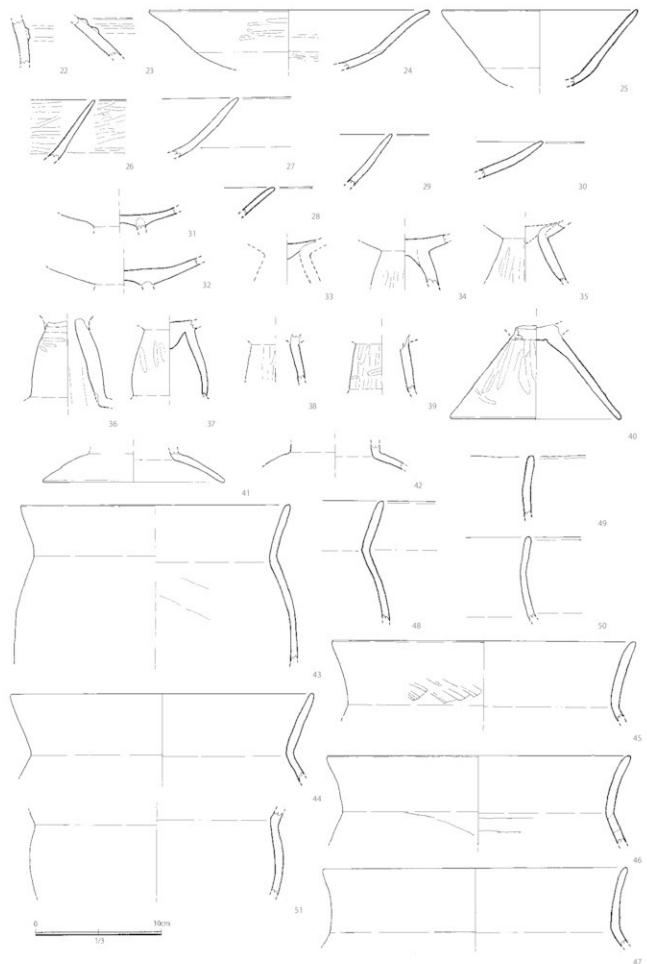
① 弥生土器

22と23は弥生中期の壺片である。近・現代耕作土(II層)より出土したことから、耕作により紛れ込んだ可能性がある。22はM字状の突帯、内外面ともナデである。23は突帯が施されている。

② 高坏

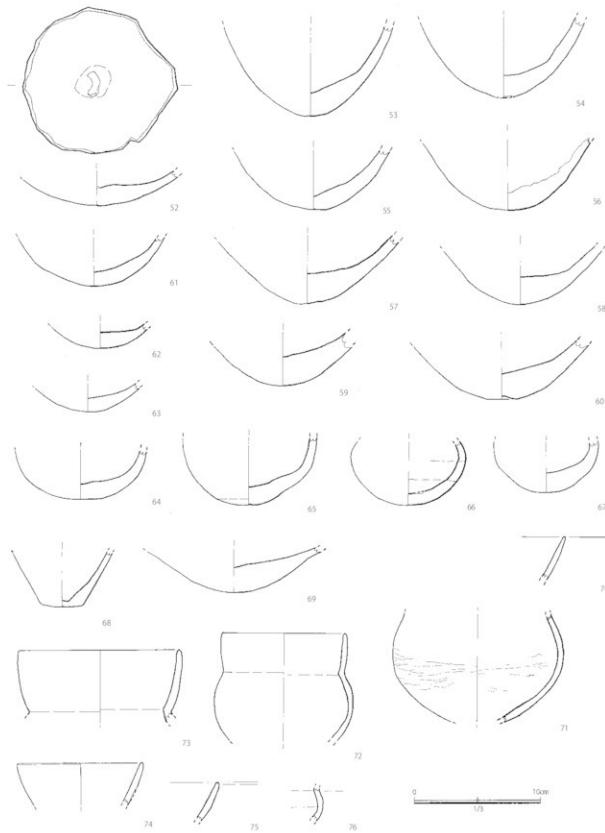
24～30は部の口縁部～刷部である。24は刷部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がり、口縁部から口縁部にかけて緩やかに外反する。刷部には接合痕がある。反転復元ではあるが口径は22cmである。器面は内外と

- 11 -



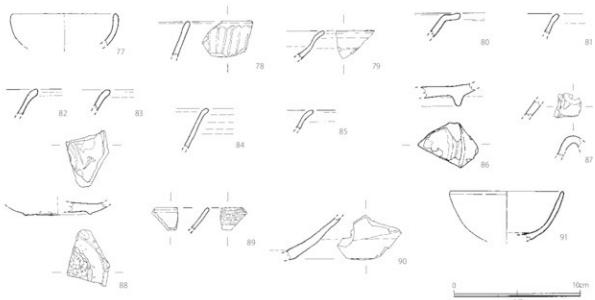
第9図 弥生～古墳時代土器実測図

- 12 -



第10図 古墳時代土器実測図

- 13 -



第11図 中世～近代遺物実測図

もに劣化しているが、横方向にナデ<sup>1</sup>、のちに磨耗している。25は坏底部から坏脚部にかけてわずかに膨らみ、そこから口縁部にかけて外側にまっすぐのびる。反転復元ではあるが口径は15.2cmである。器面は内外ともに著しく劣化しているが、横にナデ<sup>1</sup>している。26は坏底部から口縁部にかけて外側にまっすぐのびる。器面は内外ともにナデ<sup>1</sup>のちミガキである。27は坏底部から口縁部にかけて外側にまっすぐのびる。器面は内外ともに丁寧なナデ<sup>1</sup>のちミガキである。29は著しく劣化しているが、器面は内外ともにナデ<sup>1</sup>である。

31～33は坏部～脚部の接合部である。31は反転復元ではあるが接合部の外径は4cmで、坏底部に直径2cm程度のくぼみがある。器面はナデ<sup>1</sup>のちミガキである。32は接合部から坏脚部まで緩やかに開き、坏底部に直径2.5cm程度のくぼみがある。33は坏の脚部との接合部分が下方に向て突起している。31～40は脚部である。34は脚部がわずかに弧を描くように下にのびている。脚部と坏底部の接合部分の外径が反転復元であるが3.8cmである。器面は外側がナデ<sup>1</sup>のちミガキで、内面はナデ<sup>1</sup>している。35は脚部が直線的に下にのび、徐々に細くなっている。脚部と坏底部の接合部分の外径は3.4cmである。器面は内外ともにナデ<sup>1</sup>、外側の脚部のみミガキである。36は脚部がわずかに弧を描くように下にのびていて、脚部との接合部もみてとれる。脚部と坏底部の接合部分の外径は3.5cmで、脚部と裾部の接合部分の外径が反転復元ではあるが5.9cmである。器面は外側がナデ<sup>1</sup>・一部ミガキ、内面は工具による整彫痕がみられる。37は坏の脚部との接合部分が下方に向て突起し、ツマミ調整がみられ、脚部はわずかに弧を描くように下にのびている。脚部と坏底部の接合部分の外径が反転復元であるが4cmである。外側は緩方向のミガキ、内面はナデ<sup>1</sup>している。40は脚部が直線的に外方へ大きく開き、坏底部に指で押さえたような痕を残す。脚部と坏底部の接合部分の外径が3.9cmで、脚部の底径が13.4cmである。器面は坏部外面がナデ<sup>1</sup>、脚部外面が輻向方向のミガキ・内面がナデ<sup>1</sup>である。

41・42は脚裾部である。41は脚部と裾部の接合部分の外径が反転復元ではあるが7.2cmで底径が14.4cmである。器面は内外ともにナデ<sup>1</sup>である。42は脚部と裾部の接合部分の外径が反転復元ではあるが7cmである。41と同様の調整、胎土から同一個体の可能性もある。

### ③ 壺

43～50は口縁部～胴部である。43は口縁部が「く」の字に外反し、頭部でくびれて胴部がやや張る器形をなすと考えられる。口径が反転復元ではあるが21.2cmである。44も43と同様の器形をなし、口径は反転復元ではあるが23.6cmである。口縁の外面にススが付着している。45も口縁部が外反し、頭部でくびれている。口径は反転復元ではあるが23.9cmである。外面頭部付近にハケ調整が施されている。46は45と同様の器形・胎土・色調をなすところから同一個体ではないかと考えられる。47は頭部から口縁部にかけて緩やかに外反する器形をなす。口径は反転復元ではあるが23.8cmである。外面に一部ススが付着している。48は43と同様の器形をなす。器面の劣化が著

しい。49は外面にススが付着している。50は内面にススが付着している。

51は頭部～胴部である。頭部のくびれから胴部がやや張る。頭部の内径は反転復元ではあるが18cmである。また、胴部にススが付着している。

### ④ 壺

52～69は壺底部である。52は緩やかに開く丸底である。内側中央部に凹みがあり、2cm程度の粘土紐が張り付いている。外側の一部にはススが付着している。53は尖底ぎみの丸底である。内側中央部に直径1cm程度の凹みがあり、外側に一部ススが付着している。54も尖底ぎみの丸底で、外側に一部ススが付着している。56は内面が剥落している。58は丸底で内側中央部に直径1cm程度の凹みがある。外側の一部にススが付着している。59は内側中央部に直径1.5cm程度の凹みがある。60は外側中央部に直径2cm程度の凹みがある。内面に薄くススが付着している。62～67は小型な丸底で小さな器形をなし、小型の底窓の底部の可能性もある。62は内面に黒斑がある。63は内外面ともにナデ<sup>1</sup>調整で、内側中央底部にわずかに親指大の凹みがある。SE2のP1内より出土している。64は内側中央部に直径1cm程度の凹みがある。66は輪積み痕があり、外側の一部にススが付着している。68は壺もしくは鉢の底部、底径が32cmの平底である。69は内側中央部に直径2cm程度の凹みがある。また、底部から胴部にかけて急激に細くなしていくことから、壺の可能性もある。内側には薄くススが付着している。

### ⑤ 小型丸底

70～76は小型丸底壺である。70と71は胎土・色調から同一個体と思われる。口縁部が「く」の字に外反し、頭部でくびれて胴部から底部にかけて丸みを帯びる器形をなすと考えられる。反転復元ではあるが胴部の最大外径は13.5cmである。72は頭部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ちあがり、頭部でくびれ、胴部が丸みを帯びる器形である。反転復元ではあるが口径は9cmである。73はわずかに内湾しながら立ちあがり、頭部でくびれている。反転復元ではあるが口径は12.4cmである。76は頭部から胴部にかけて丸みを帯びる器形である。サイズからして手づくね土器の可能性もある。器面は内外ともに横方向にナデ<sup>1</sup>している。

## 第4節 中世～近代の遺物と遺構

第11図に中世・近代の遺物実測図を掲載し、第5図・第12図に遺構配置図・実測図を掲載した。今回の調査では中世陶磁器片・近代の薩摩焼が出土した。調査区内南西部に掘立柱建物跡と思われるビット5基、同じく北東側にビット3基が検出されたが、調査区が狭小なため遺構の全容は不明な点が多い。以下、出土資料を個別にみていくたい。

### ① 青磁

77～87は青磁である。78・79・82～85は碗の口縁部である。78は上田分類のBに比定され、繊細の蓮弁が単位を意識するように施されていて、15世紀末～16世紀前・中期のものと推測される。84は口唇がやや外反し、灰色の釉が全体にうすくかかる。86は碗底部で高台をもち、施釉後、外底の釉が輪状に削り取ってある。87は水注の注き口である。

### ② 染付

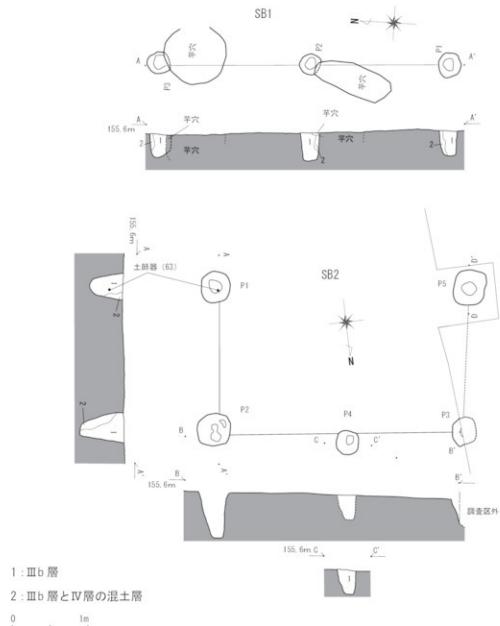
88～89は染付で、中国青花である。88は皿底部で、吉祥文字「寿」のようなものがみられ、底部外面に鈴印模痕がある。15世紀後半～16世紀後半のものと推測される。89は口縁部である。器形ははっきりとしない。

### ③ 天目茶碗

90は天目茶碗である。中世の瀬戸系天目茶碗で、内面と外面上部は釉がかかり、外面上部と底部は露胎である。

### ④ 薩摩焼

91は薩摩焼である。近代薩摩焼の碗で、II層より出土している。反転復元ではあるが、口径は8.8cmで、内外面ともに釉がかかり、内面底部は露胎である。



第 12 図 SB1・SB2 実測図 (S=1/50)

(5) 遺構（掘立柱建物跡）

SB1は調査区内北東部で検出された。梁行2間(3.85m)である。柱間寸法は茅穴により明確ではないが、P1～P2が1.5m、P2～P3が1.7m、P1～P3が3.5mと推測される。柱穴下部の直径は15～20cm、深さは30～35cmである。埋土はIIIb層とIIIb・IV層の混土である。調査区内で建物の全容は把握できなかったが、西側には柱穴がないため調査区外東側に建物の主体部分の柱穴があるのではないかと考えられる。

SB2は調査区内南西部で検出された。梁行2間(3.3m)である。柱間寸法はP1～P2が1.72m、P2～P4が1.36m、P3～P4が1.24m、P2～P3が2.96mである。柱穴下部の直径は10～15cm、深さは46～58cmであるが、P4のみ深さが30cmとやや浅めである。P1では古墳時代の土師器壺の底部(第10図-63)が出土した。各柱ともに埋土はIIIb層とIIIb・IV層の混土であり、IIIb層を主体としている。調査区内で建物の全容を把握できなかったが、北側、西側に柱穴がないため調査区外南側又は西側に建物跡が広がるのではないかと考えられる。また、P1からP5の間に柱穴を確認することはできなかったため、絶柱建物ではないと推測される。

SB1・SB2とともに柱穴内の埋土から中世期の掘立柱建物跡と考えられ、建物に附随する甌の存在は確認できなかつた。また、調査区内南東部にピットが2基検出されたが、掘立柱建物跡と確認されたのはSB1とSB2の2棟のみであった。



第 13 図 石器実測図

## 第5節 石器

第13図に石器の実測図を掲載した。92～94は敲石、95は磨石、96は紙石、97はスクレイバーである。92～97の石材は砂岩である。92は長さ11.2cm、幅3.85cm、厚さ2cm、重さ130gを測る。93は長さ17.6cm、幅6.2cm、厚さ6cm、重さ900gを測る。上部が欠損している。94は長さ8.3cm、幅8.3cm、厚さ4cm、重さ368gを測る。上部が欠損している。95は長さ11.1cm、幅8.6cm、厚さ2.1cm、重さ296gを測る。96は長さ11cm、幅5.3cm、厚さ2cm、重さ228gを測る。上部が欠損している。97は長さ9.3cm、幅4.5cm、厚さ1.8cm、重さ69gである。

## 第4章 まとめ

茶園原遺跡は都城盆地北縁、南に盆地を一望するシラス台地上に立地し、台地を開むように大淀川と支流の東房川が流れている。周辺には縄文時代・古墳時代・古代・中世の遺跡が点在している。今回の調査では、縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺物、中世の遺構・遺物が確認できた。

今回の調査を各時代ごとにまとめてみたい。

縄文時代後期・遺構を確認することは出来なかつたが、遺物としては、胴部～底部にかけて市来式土器片が多数出土し、口縁部～胴部にかけて市来式2点、納屋向式1点、納曾式1点、丸尾式10点が比定できた。また、V層(御池軒石層)上面でのコンターラインからみると、調査区一帯は平坦である。このことから、遺物は流れ込みによるものとは考えにくく、調査区付近に集落跡がある可能性は十分にあると思われる。

弥生時代……今回の調査では、弥生土器が2点のみ出土したが、II層(旧耕作土層)からの出土ということもあり、周辺に弥生時代の遺構が存在する可能性は低いと考えられる。

古墳時代……遺構を確認することはできなかつたが、高壙・窓・壺・小型丸底壺などの多様な器種の土師器が出土した。牧ノ原古墳群が南東約1kmに所在することから、調査区周辺に牧ノ原遺跡群に付随する集落が点在する可能性は高いと思われる。

中世……掘立柱建物跡が2棟検出され、少量ではあるが青磁片・染朱(中国青花)・瀬戸系天目茶碗が出土した。遺物の中には、15世紀末～16世紀前半のものと思われる青磁片、15世紀後半～16世紀後半のものと思われる中国青花も確認できた事から、15世紀後半～16世紀後半の集落跡ではないかと推測できる。また、調査区から高城址までの距離が南北に500mと近い事も集落跡の性格を探る上で考慮する必要がある。建物跡の柱穴すべて確認できなかつたので正確に建物の規模をわりだすことはできないが、都市域内で検出された掘立柱建物跡の基本的な間取りが3間×1間ないし3間×2間であることから推測すると、SB2については床面積が約19.8m<sup>2</sup>となる。この規模の床面積は都城市内における農民居の建物規模(外山・原田 2004)と一致するので、SB2については農民居の掘立柱建物跡の可能性がある。しかしながら、前述した陶器類の出土状況から上位階層の居住の可能性も否定できない。

今回の調査は面積が狭小なため遺跡の全容は不明な点が多いが、調査区東側は谷となっていることから、各時代の集落跡は南北方向ないし、西側に点在する可能性がある。また、文献資料も含めた高城址との関係について踏み込む事はできなかつたので、今後の周辺調査により全容を解明することを課題としたい。

## 参考文献

- 上田秀夫 1982年 「14～16世紀の青磁分類」(日本貿易陶磁研究会「貿易陶磁研究 第2号」)
- 高城町教育委員会 2005年 「牧ノ原遺跡群」個人農地造成・道路遮蔽に伴う埋蔵文化財調査報告書 第20集
- 高城町史編集委員会 1989年 「高城町史」
- 外山隆之・原田亜希子 2004年 「都城市における中世掘立柱建物跡類型化」『宮崎考古』第19集
- 水ノ江和同・前迫亮一 2010年 「各地域の土器編年 九州」(千葉 豊「西日本の縄文土器 後期」)
- 宮崎県 1989年 「宮崎県史」資料編 考古I(P218～231)
- 宮崎県教育委員会 1969年 「高城町牧ノ原遺跡調査報告書」宮崎県文化財調査報告書 第14集
- 宮崎市教育委員会 1999年 「松添貝塚II」宮崎市文化財調査報告書 第37集

第1表 遺物観察表

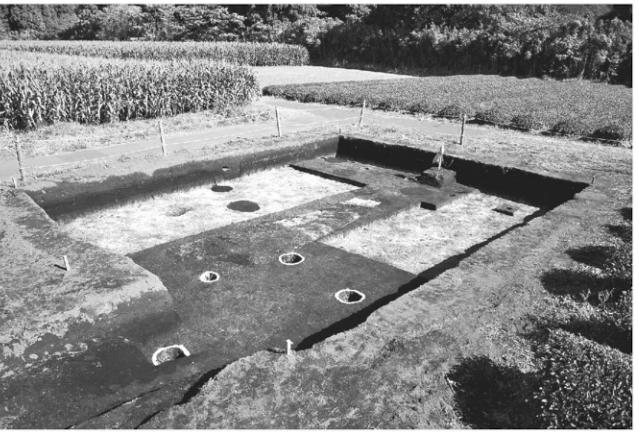
番号	出土位置	発見者	性質	基準	子安・渋谷・大和田		基準	性質	基準
					柱	内筒			
1	第1層	土器片	石器	120	ナメル・直筒形	縦口のナメル	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直口・直筒を有する 直筒形	直筒形
2	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
3	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
4	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
5	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
6	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
7	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
8	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
9	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
10	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
11	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
12	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
13	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
14	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
15	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
16	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
17	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
18	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
19	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
20	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
21	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
22	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
23	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
24	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
25	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
26	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
27	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
28	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
29	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
30	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
31	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
32	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
33	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
34	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
35	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
36	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
37	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
38	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
39	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
40	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
41	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
42	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
43	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
44	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
45	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
46	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
47	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
48	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
49	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
50	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
51	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
52	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
53	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
54	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
55	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
56	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
57	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
58	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
59	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
60	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
61	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
62	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
63	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
64	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
65	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
66	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
67	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
68	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
69	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
70	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
71	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
72	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
73	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
74	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
75	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
76	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
77	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
78	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
79	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
80	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
81	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
82	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
83	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
84	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
85	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
86	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
87	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
88	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
89	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
90	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
91	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
92	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
93	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
94	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
95	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
96	第1層	土器片	石器	120	直筒形	直筒形	柱:φ30mm×15mm 内筒:φ20mm×12mm	直筒形	直筒形
97	第1層	土器片	石器	120	直筒形				

### 図版1 茶園原遺跡の調査①

第2表 遺物観察表



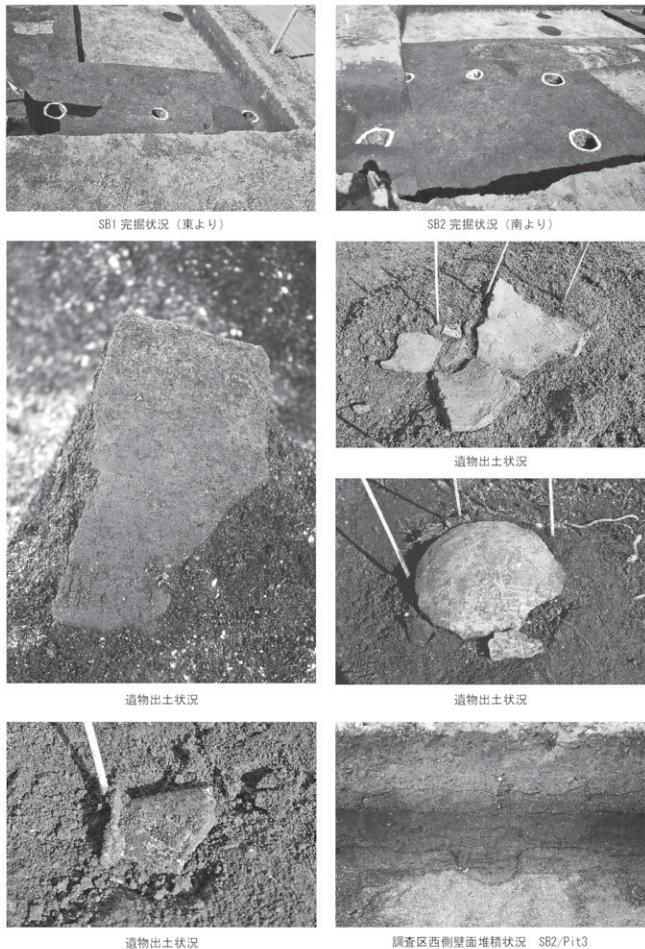
茶園原遺跡遠景（南東方向より霧島を望む）



茶園原遺跡全景（南西方向より）

第3表 石器觀察表

図版2 茶園原遺跡の調査②



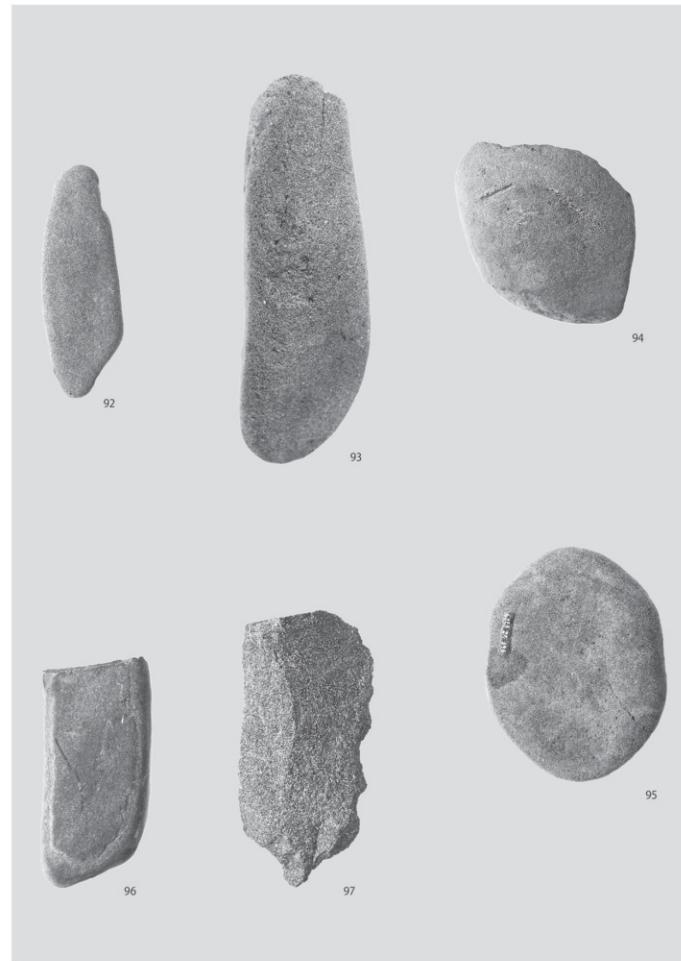
図版3 茶園原遺跡の出土遺物①



図版4 茶園原遺跡の出土遺物②



図版5 茶園原遺跡の出土遺物③



## 報告書抄録

ふりがな	ちゃえんぱるいせき							
書名	茶園原遺跡							
副書名	ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	都城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第118集							
編著者名	中園剛史							
編集機関	都城市教育委員会							
所在地	〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町19-1 TEL0986-23-9547 FAX 0986-23-9549							
発行年月日	2015年3月20日							
所取遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちゃえんぱるいせき 茶園原遺跡	宮崎県都城市 高城町植満坊 軍人原 2613番	45202	TJ3007	31° 48' 27' 付近	131° 8' 2° 付近	H25.10.29 ～ H25.11.26	112m <sup>2</sup>	携帯電話 鉄塔建設
遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
ちゃえんぱるいせき 茶園原遺跡	散布地 散布地 集落跡 散布地	縄文時代 古墳時代 中世 近代			掘立柱建物跡	縄文土器・弥生土器 土師器 青磁・染付・天目茶碗 薩摩焼		
要約	<p>茶園原遺跡は都城市高城町に所在する。ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に先立ち、本発掘調査を実施した。</p> <p>茶園原遺跡は都城盆地北縁、南に盆地を一望するシラス台地上に立地し、台地を囲むように大淀川と支流の東岳川が流れている。標高は約155.8mである。</p> <p>今回の調査は、御池軽石層（V層）までを調査対象とした。発掘調査の結果、II～IV層で縄文後期土器・弥生土器・古墳時代の土師器・中世～近代の陶磁器、石器が出土した。また、中世の掘立柱建物跡と思われる柱穴が確認された。</p> <p>調査の結果、周辺に縄文時代後期・古墳時代の集落が点在する可能性と、中世の集落が所在することが明らかとなった。</p>							

### 都城市文化財調査報告書第118集

## 茶園原遺跡

－ソフトバンク携帯電話通信サービス施設（携帯電話鉄塔）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2015年3月20日

編集・発行 都城市教育委員会 文化財課

〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町19-1

TEL (0986) 23-9547 FAX (0986) 23-9549

印刷・製本 有限会社 都城新生社印刷

〒885-0004 宮崎県都城市都北町7284-1

TEL (0986) 38-3500 FAX (0986) 38-4187

